

苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 11 回 定例委員会
日時	平成30年10月26日 自 15時00分 至 15時35分
場所	市役所第2庁舎2階南会議室
出席委員	教育長 和野 幸夫 委員 佐藤 郁子 委員 植木 忠夫 委員 齋藤 智子 委員 岡田 秀樹
欠席委員	
会議録署名委員	植木 忠夫 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 高橋 優介
事務局職員	教 育 部 長 瀬 能 仁 教 育 部 次 長 山 口 朋 史 総 務 企 画 課 長 齋 藤 貴 志 総 務 企 画 課 教 育 C D 佐 竹 秀 行 総 務 企 画 課 主 査 前 田 亜 矢 子 総 務 企 画 課 主 事 高 橋 優 介
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（和野教育長）・・・15時00分
2 会議録署名委員の指名（植木忠夫委員）
3 会議録の承認
（和野教育長） 第10回定例教育委員会（平成30年9月28日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
-会議録どおり承認-
4 教育長の報告
（和野教育長） 本日は、午前中に凌雲中学校、午後から明倫中学校に学校訪問いただきありがとうございました。視察中にご意見もいただきましたが、他にお気付きの点がありましたら、いつでも結構ですのでご指摘をいただきたいと思います。
先月9月28日の定例教育委員会以降の事業などについて報告いたします。
9月29日に、「第53回小中学生発明工夫展・第48回理科展」を科学センターミール展示館ロビーで開催いたしました。市内の小学校17校から80点の応募がありました。応募された全ての作品は、子供たちが夏休みに一生懸命取り組んだ作品ばかりであります。また、ここ数年はミール展示館を会場に表彰式を開催しております。最近、特に多くの保護者の皆さんにも出席いただき会場が手狭になってきましたが、理科展にはこの上ない会場であり、少し我慢をしていただき表彰式を行っております。

<p>ただ残念なことは、昨年、本年と中学生の応募がないことであります。日頃の勉強やクラブ活動が忙しくて取組ができないのかもしれませんが、理科や科学に限らないことですが、創意工夫することの楽しさや地道に観察・研究を続けることの大切さを学ぶことができるものと考え、もう少し幅広い取組を期待するものであります。</p>
<p>次に、10月9日から10日にかけて、一般会計の平成29年度事業に対する決算審査特別委員会が開催されました。教育費の審査は、10日に5名の委員から6項目について質疑がありました。</p>
<p>質疑の内容では、「文化財発見ツアー」について、苫小牧市外への文化財視察の際にはバス代などを有料としてはどうかという提案をいただき、検討すると答弁しております。「いじめ・不登校問題」については、いじめアンケートなどの状況や、いじめ問題子どもサミットの事業内容についての質問がありました。また、不登校の現状と今後の対応についての質疑があり、今年度から取り組んでいる教育支援センターについての内容もありました。「学校給食」に関しては、収納率の向上と不納欠損について高い評価をいただきました。また、食物アレルギーに対する取組について、牛乳と代替物についての質疑がありました。「中央図書館」については、指定管理者への移行に関連し、計画の整備などを求められました。質疑の内容は、別途お知らせしたいと考えます。</p>
<p>10月13日に、「出光興産コンサート～みらいを奏でる音楽会～」が市民会館で開催され、多くの市民の皆さんに「こぼんだウインドアンサンブル」のコンサートを楽しんでいただきました。コンサートマスターのサクソ奏者である上野耕平さんは、「題名のない音楽会」にも出演している演奏家であり、すばらしい演奏を堪能できたと思います。また、幕間には先日オープニングセレモニーを行いました美術博物館の藤沢レオ企画展について、その内容も紹介され、わかりやすく企画展のPRを行うことができたと考えております。</p>
<p>第70回市民文化祭のさまざまな事業も始まっております。本市の市政施行70周年の節目を迎えており、正しく市政とともにある文化の祭典であります。文芸週間の</p>

14日には「市民短歌大会」、「市民川柳大会」、21日には「市民俳句大会」が開催されました。少子高齢化に伴い、各大会では参加者の増と若年層の拡大についてさまざまな取組をしておりますが、残念ながら目立った効果がでていない状況にあると思います。しかし、市民の文化祭でありますので、参加した市民の皆さんが楽しく取組ができることが第一であると考えております。

次に、10月18日に第34回学校給食作文コンクール表彰式が開催され、私から各賞の賞状を授与しております。今年は、小中学校15校から95点の応募がありました。子供たちの作品は、給食を楽しみにしている気持ちや給食に携わる人たちへの感謝、好き嫌いをみんなと一緒に給食で克服したことなど、給食に対する思いが生き生きと表現されている作品ばかりでありました。また、表彰式では、7点の最優秀賞作品について本人から発表されましたが、その中にはお父さんが給食で食べた白老和牛の給食が食べたいとの要望もありました。

10月21日には、第29回MOA美術館苫小牧・白老児童作品展の表彰式が開催され、岩倉市長、白老町安藤教育長とともに賞状を授与しております。私からは、絵画部門で苫小牧市教育長賞を授与しております。410点の応募があり、その中から絵画、書写それぞれ2点が奨励賞を受章し、熱海での本選に臨むこととなります。

10月24日に、アイビープラザにて2日間の日程で、第15回長生大学合同大学祭が開催されました。同日午後から、「苫小牧の動植物」と題して谷口勇五郎さんが講演を行ない、舞台や作品で5大学の学生が日頃の取組の成果を発表しております。

報告は以上であります。何か質問はございますか。

(一同「なし」の声)

5 議 案

第1号 教職員の処分について（報告）

（和野教育長） 議案第1号につきましては人事案件でございますので、教育委員会
会議規則第21条の規定により秘密会とし、この場合、当該議案の審議を日程の最後
に行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（一同「はい」の声）

（和野教育長） それでは、議案第1号は秘密会とし、当該議案の審議を日程の最後
に行うことに決定いたしました。

6 協 議

（和野教育長） 協議事項をお持ちの方はいらっしゃいますか。

（一同「なし」の声）

7 その他

（1）コミュニティ・スクール導入推進事業の進捗状況について（報告）

（教育部次長） -コミュニティ・スクール導入推進事業の進捗状況の概要について
説明-

（総務企画課教育CD） -コミュニティ・スクール導入推進事業の進捗状況につい

て説明-
(和野教育長) 質疑に付します。何かご質問等はございますか。
(植木委員) 順調にコミュニティ・スクールの取組やモデル地域づくりを検証していることはわかるのですが、2点教えてください。6月11日の事業に、伝統芸能継承活動として「二階堂推進委員による『藍染め体験学習』」とあります。下の方に記載されている「千人隊踊り」はわかるのですが、藍染めについてはもともと勇払地区にあった活動なのかを教えてください。
それと、次年度にモデル地域をもう1つ増やすということで、これは大変よいことだと思いますが、苫小牧市としての取組はこれで打ち止めなのでしょうか。それとも、今後さらに広めていく予定があるのかどうかを教えてください。
(総務企画課教育CD) まず、「藍染め体験学習」につきましては今年度初めての試みです。二階堂さんについては、勇武津資料館の職員の方で、推進委員のメンバーでもあります。小学校4年生と中学校1年生について、それぞれの小中学校での種植えから始めまして、先日採集し、実際に藍染めを行っております。先ほどお話したとおり、従前から行っている活動がほとんどではありますが、この藍染めに関しましては、コミュニティ・スクールの取組として初めて導入しました。
今後のモデル地域については、現在のところ考えておりません。今年度を含めたこの2年間で検証をしますが、コミュニティ・スクールを正式に導入することになった場合、「学校運営協議会規則」というものを苫小牧市として策定しなければいけません。2019年度中に規則を策定して、2020年度を目標に正式に何校かの学校をコミュニティ・スクールに指定してはどうかということで、今後小中学校長会等とも協議をし、決定していきたいという流れです。
(植木委員) いきさつはわかりました。藍染めについては、勇払地区に根ざしている活動ではないということですね。
(総務企画課教育CD) ただ、藍染めに関しては、松浦武四郎さんの関係で昔からあったらしいです。地元の婦人会のサークルにも藍染めのサークルがありまして、こ

<p>の体験学習の際には地域の方々も来て、一緒に指導していただいております。</p>
<p>(植木委員) ありがとうございます。</p>
<p>(齋藤委員) 勇払地区でのコミュニティ・スクールの取組が順調に進んでいるという ことで、大変よろしいことだと思います。来年度から清水小・開成中地区をモデル 地域にするということはわかったのですが、モデル校として清水小・開成中を選ばれ た理由については、地域的な問題もあるかと思いますが、多分一小・一中の校区でや りやすいからではないかと思います。</p>
<p>苫小牧市ではこのような一小・一中というエリアの方が少ないと思うのですが、本 格的に導入されていった場合、大体中学校1校に対して小学校3校くらいなので、も しかすると一小・一中で成り立ったことが成り立たないのではないのでしょうか。やは り、保護者の方の思い入れや価値観が違ってくると思うのですが、その辺りのことは どのようにお考えでしょうか。</p>
<p>(総務企画課長) 今ご指摘いただいた点ですが、まずは一小・一中のやりやすい地 域からコミュニティ・スクールの取組自体を固めるといった狙いで、モデル校を選ん でおります。今後、二小・一中などの地域での取組も進めていかなければいけないの ですが、まずはコミュニティ・スクールというものの自体でどのようなことができ、 どのような課題が出るのかについて、今の時点で整理をしています。</p>
<p>今は、中学校区を中心にエリアという考えで、それぞれの地区の連携を深める取組 も進めていますので、今後はその取組と出来上がったコミュニティ・スクールをどの ように融合させていくかについて、規則制定後に少し時間を掛けながら進めていき たいと考えております。保護者の考え方などの違いもありますが、小学校が分かれてい るだけではなくて複数の町内会に分かれている地域など、非常に難しいところもあ りますので、少し課題を整理しながらゆっくり進めていきたいと考えております。</p>
<p>(齋藤委員) わかりました。</p>
<p>(佐藤委員) 齋藤委員と似た質問なのですが、今年度は「勇払地区」、そして来年 度は「清水小・開成中」をモデル地域としていろいろなことをされると思うのですが、</p>

資料の「1 本市におけるコミュニティ・スクールの基本的な考え方（方向性）」の
(3)に、「モデル地域として取組を進め、他地区に還流する」とあります。この
「他地区」の範囲なのですが、今年度は全国コミュニティ・スクール研究大会が三笠
で開催されるように、苫小牧市外の地区も対象として考えてよいのでしょうか。
(総務企画課長) 今、我々の方で考えていることは、勇払地区での取組を市内の学
校に還流するということです。コミュニティ・スクールについては努力義務とされて
いることから、最終的には全校で行うことが目標なので、市内の他地区を対象として
いるところです。
(佐藤委員) わかりました。
(和野教育長) 他にございますか。
(一同「なし」の声)
(和野教育長) それでは、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(和野教育長) それでは、先ほど秘密会とすることに決定いたしました議案第1号
の審議を行いたいと思います。関係者以外は退席をお願いいたします。
(和野教育長) それでは、秘密会を解かさせていただきます。
なお、議案第1号につきましては原案どおり決定しました。
8 委員会閉会の宣言 (和野教育長)・・・16時45分